

# 災害時の避難に関する 情報を理解しましょう

## 避難情報に注意しましょう

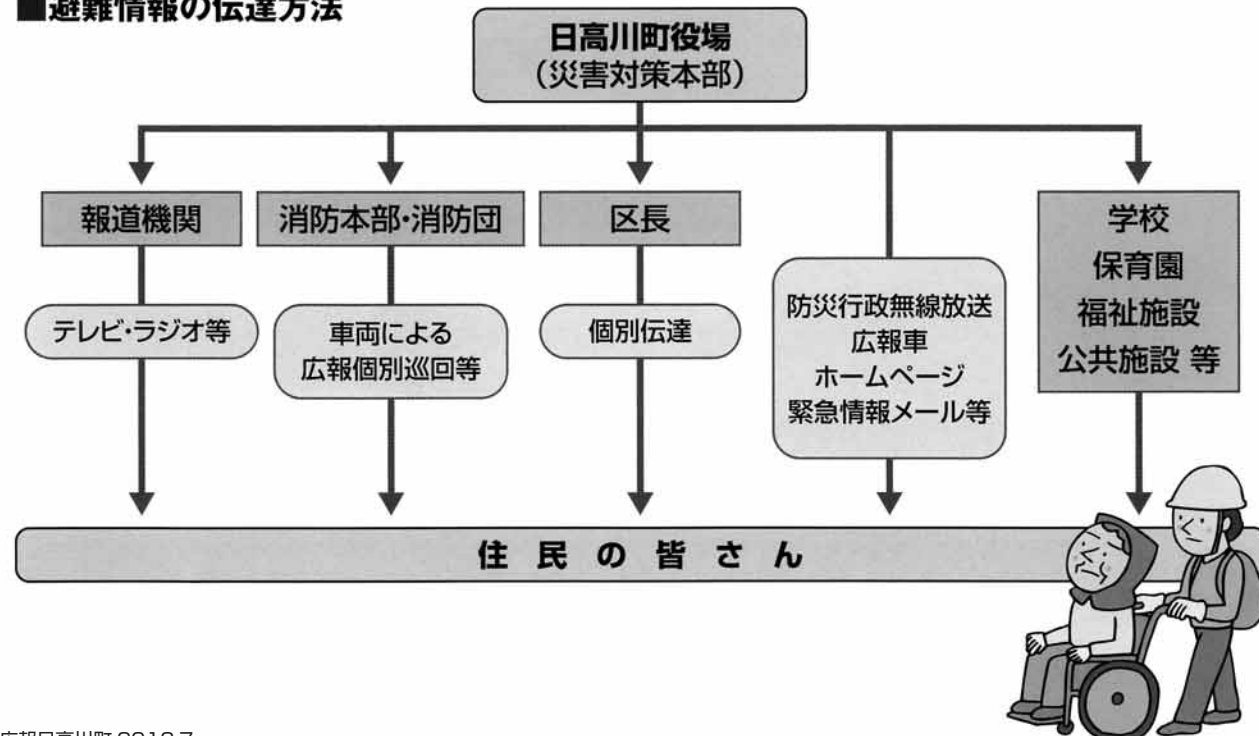
日高川町では、災害による危険性が高まったときに、避難情報を発表します。避難情報が発表されたときには、落ち着いて内容を確認し、その指示に従って速やかに避難行動をとってください。



### ■避難情報の種類

緊急度 低	避難準備情報	<p><b>【災害の発生する危険性が高まった状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●避難の準備を進めてください。特に高齢者や体の不自由な方などはすぐ避難できるようにしてください。</li> </ul>
	避難勧告	<p><b>【災害の発生する危険性が明らかに高まった状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●避難準備ができた方から、速やかに避難所等の安全な所への避難を開始してください。</li> </ul>
高	避難指示	<p><b>【災害が発生する危険性が非常に高い状況・災害が発生した状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●直ちに避難所等の安全な所へ避難してください。</li> <li>●事態が切迫し、避難所に移動する時間がない場合は、生命を守る最低限の行動をとってください(例:洪水時には自宅・最寄りの安全な建物等の上層階に移動するなど)。</li> </ul>

### ■避難情報の伝達方法



## 各種災害の特性を知っておきましょう

災害からの避難は早め早めが原則です。避難行動が遅れてしまって無理をした場合には、避難の途中に被災してしまう危険性もあります。各種災害の特性を理解し、適切な行動をとることができるようにしておきましょう。

### 水害

#### 災害の特徴

- 河川のはんらんなどの「外水はんらん」  
●堤防のない河川で川の水があふれると、次第に浸水域、浸水深が増加する
- 堤防が壊れた場合、水は一気に押し寄せる。堤防近くの住民は壊れる前に避難を完了する。あふれた水が集まる低地では特に迅速な避難が必要になる
- 市街地の水はけの悪化、水路があふれるなどの「内水はんらん」  
●降雨量が小河川や下水道の処理能力を超えたときに発生する。外水はんらんより浸水深は浅い傾向にあるが、地下施設などでは生命にかかわる

#### 避難に関する注意点

- <すでに浸水が始まっている場合>
- 水深が50cmを上回る(ひざ上までの水)場所での避難は危険
- 水の流れが速い場合は、20cm程度でも歩行できないことがある
- 用水路などへの転落の恐れがある場所では、10cm程度でも危険

#### 生命を守るための最低限の行動

- 水が押し寄せて歩くことが危険になった場合には、自宅や隣接建物の2階などへ緊急的に避難する

### 土砂災害

がけ崩れ、土石流  
地すべり

#### 災害の特徴

- 土砂災害は生命の危険が高いため、災害発生前に避難を完了する必要がある
- 前兆現象を確認したら直ちに避難する(下記参照)

#### 避難に関する注意点

- 避難する際は、他の土砂災害危険区域内は通らない
- 土石流の場合、渓流から直角方向に逃げ、できるだけ渓流から離れる。渓流を渡って対岸に逃げてはいけない

#### 土砂災害の前兆現象

- 生命を守るための最低限の行動
- 比較的高い鉄筋コンクリート造等の堅固な建物の2階以上の、斜面と反対側の部屋に避難する
- 土砂災害の前兆現象  
土石流 近くで山崩れなどが発生/立木の裂ける音や岩の流れる音/渓流の水が急ににごり、流木などがまざる など  
がけ崩れ 斜面に亀裂/小石が斜面からばらばら落下/斜面から異常な音、山鳴り、地鳴り/斜面にふくらみが見られる など  
地すべり 地鳴り/家鳴り/根の切れる音/地面の振動/木の枝先の擦れ合う音(風の無いとき)/亀裂や段差の発生・拡大 など

### 津波

#### 災害の特徴

- 沿岸近くで発生した地震による津波は到達時間が極めて短い。反対に日本から遠く離れた場所で発生した地震による津波は到達まで相当の時間がかかる

#### 避難に関する注意点

- 強い地震(震度4程度以上)、または長時間のゆっくりとした揺れを感じた場合には避難勧告や避難指示を待たずに直ちに避難する
- 津波警報が出た場合は、避難指示を待たずに直ちに避難する

#### 生命を守るための最低限の行動

- 逃げる時間がない場合は、最寄りの「津波避難ビル(耐震性を備えた鉄筋コンクリート造、3階建て以上のビルなど)」に緊急的に避難する